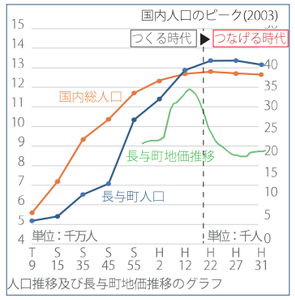
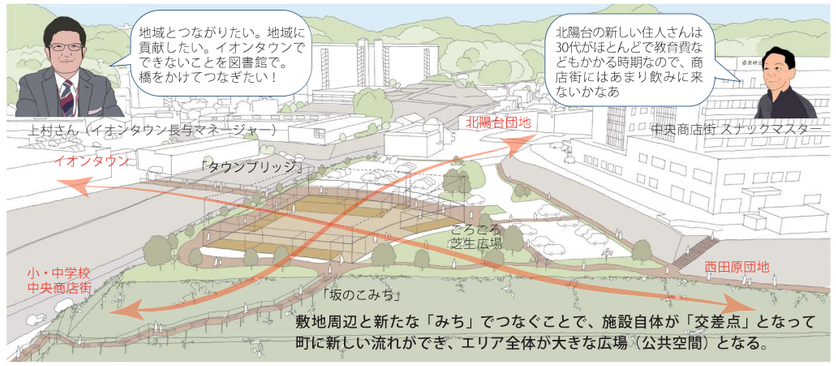
まちをつなぎ、出会いを生む、大らかな交差点
―長与町新図書館等複合施設構想―



人口推移及び長与町地価推移のグラフ

「つくる」から「つなぐ」へ

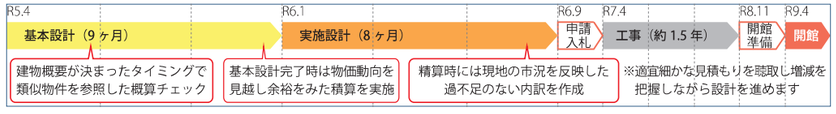
日本の近代化から高度成長期の流れを、より急速に進めてきたといえる長与町のまちづくりは人口増の時代の模範ともいえるものでした。インフラや居住・教育環境は整備され、機能的で安心安全なまちとなりましたが、その一方で**「曖昧で寛容な余白」**は徐々に減り、人びとのつながりや居場所も減っていきました。人口減へ大きく舵を切った現在、長与の都市戦略も大きくシフトする必要があります。それは**「つくる時代」から「つなぐ時代」への大変換**ともいえます。



敷地周辺と新たな「みち」でつなぐことで、施設自体が「交差点」となって町に新しい流れができ、エリア全体が大きな広場（公共空間）となる。

信頼されるパートナーとして

建設費急騰の今、設計段階からこまめに**コストチェック**を行うことが必須となります。図書館や保健センターの場合は、建設費以外の家具・備品やサイン、システム構築、引っ越し等その他調整事項も多いため、初期からそういった交通整理も重要です。ぼくたちは経験を活かしながら発注者のパートナーとして伴走し、実施設計段階からは**県内の設計事務所と協働（JV）**することで、風土に適した仕様検討やよりきめ細かなコスト協議を重ね、開館に向けて手戻りや滞りなく進めます。

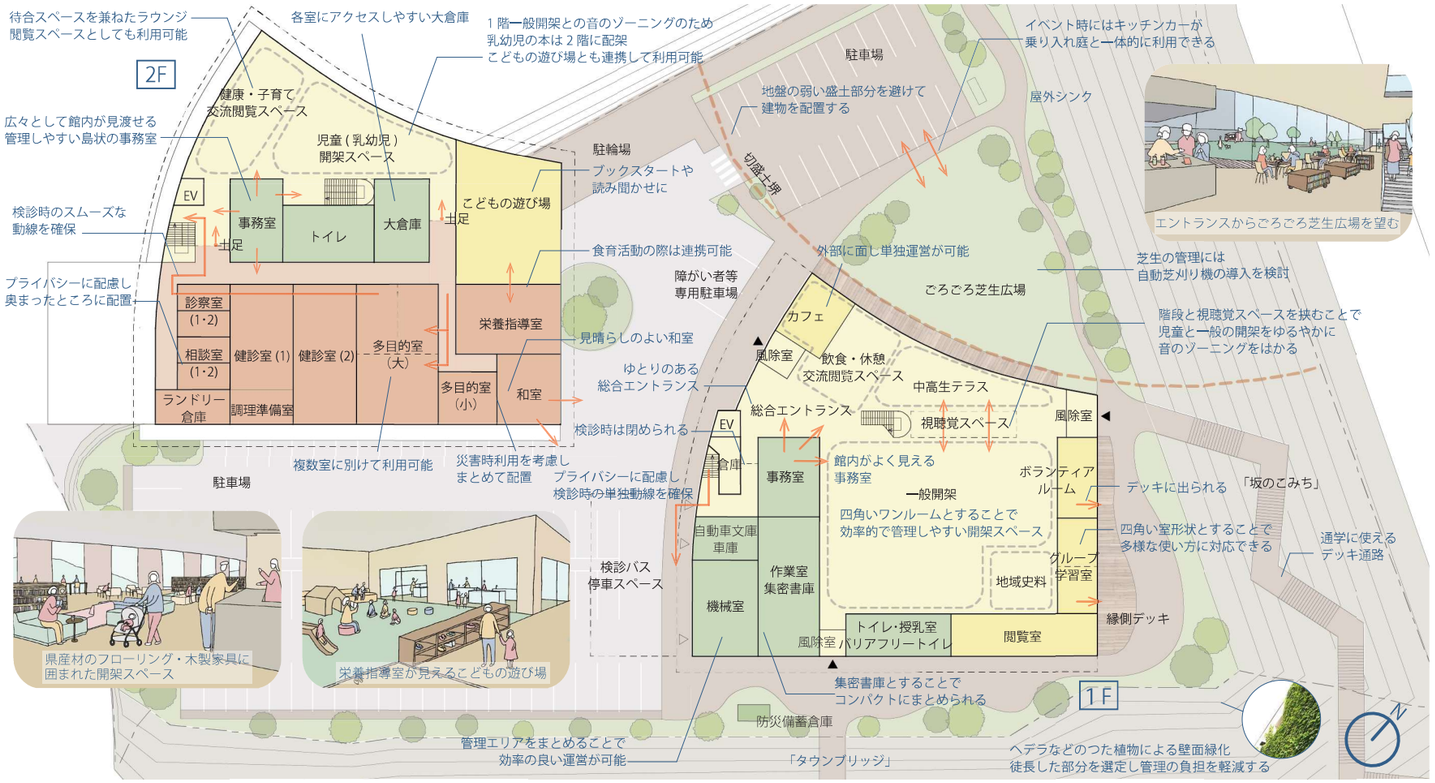


その町ならではの物語を編む

ぼくたちの仕事は施設整備を**「物語」**へ編集し、その物語に参加する**登場人物をひとりでも多く増やす**ことです。しかしながらそのための方法や最適解はまちによってさまざまです。そのため手段を「目的」化せず、これまであらゆる引き出しを増やしてきました。長与町にとって何が一番ふさわしいか、担当者と一緒に楽しく考え、町全体を盛り上げていきたいです。

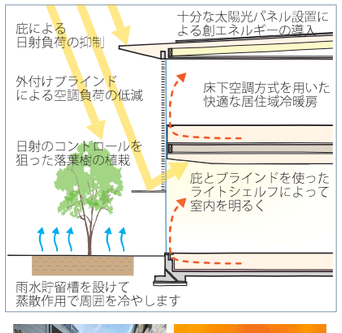
未来の子どもたちへ負担をかけないために

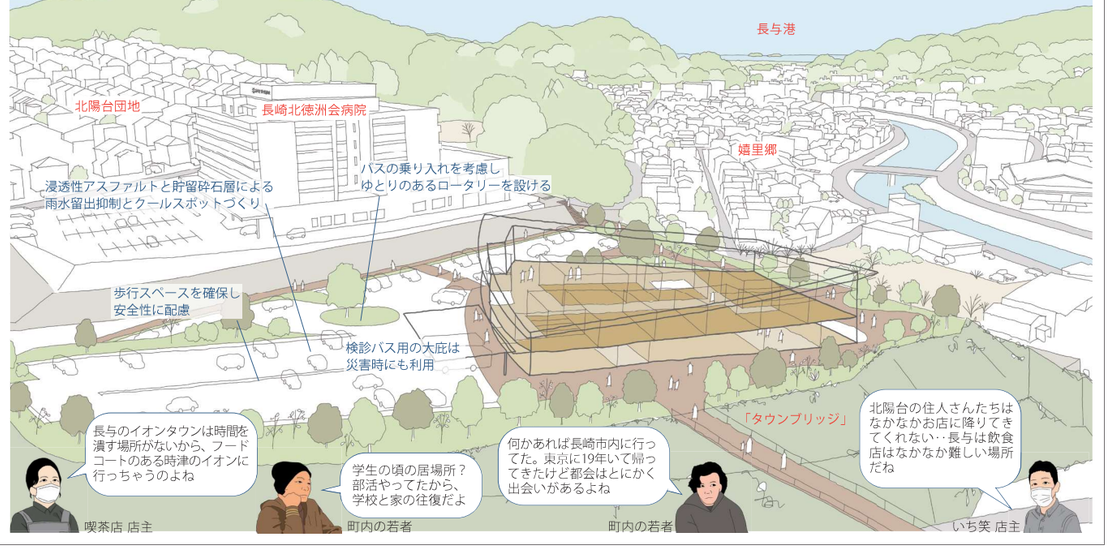
ゼロカーボンシティ長与のビジョンを示すために、本施設は**耐火木造**を採用します。そうすることで建設コストや工期も同時に縮めることができます。また未来の経済負担を減らすために、発注者と設計者が一体となって、強い意志を持って（図書館・保健施設としては国内初になるであろう）**PerfectZEB**を必ず実現しましょう。そのためには建物は**高気密高断熱**を確保しやすい**凸凹の少ない単純なボリューム**とし、屋根は太陽光パネルを効率的に載せるために十分な広さのフラット形状となります。



	3階建	2階建	平屋
上下足のゾーニング	上足での階移動	階ごとのゾーニング	階移動不要
外皮面積	2500 ㎡程度	2700 ㎡程度	3900 ㎡程度
駐車場面積	広い	普通	狭い

諸条件に対するバランスが良い2階建として、1階レベルには誰もが自由に行き来できるよう、図書館機能をメインに計画します。個室群を外周部にまとめて配置し外部環境とのバッファーゾーンとすることで、空調負荷の低減と本の日焼けに配慮します。



LEED for Homes 取得申請「鈴森VILLAGE」(2023)

町を一望できる場所に、敷地形状に沿って配置された建物は、裏のないシンプルな構成です。
室内から緑豊かな外構、そしてまちへと滑らかにつながることでこの施設一帯が**「まちの交差点」**となり、さまざまな方向から人々が歩いて訪れる、大らかで寛容な日常の居場所となります。
本や情報、人が出会い、つながり、学び合う長与の小さな物語がここからたくさん生まれていきます。